

令和 4 年 6 月 10 日現在

機関番号：17101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K02030

研究課題名（和文）社会的格差を踏まえた社会関係資本の効果に関する具体的検討：ジェンダー、教育、家族

研究課題名（英文）Research on Various Effect of Social Capital: Based on Inequality concerning Gender, Education, and Family Status

研究代表者

喜多 加実代 (KITA, Kamiyo)

福岡教育大学・教育学部・教授

研究者番号：30272743

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、東京、福岡、長崎でインタビュー調査を実施し、家族・社会関係や社会活動、ライフイベントや生活状況ごとのサポートのニーズ等の詳細を尋ね、過去に実施した計量調査結果等を踏まえて検討した。

社会的に不利な層、困難を抱える層が、社会関係資本へのアクセスにおいても不利になる具体的な状況が確認できた一方、転職、自身や家族の発病や障害等により、それまで有していた社会関係資本が機能しなくなったり、新たな社会サポートのニーズが生じたりすることが見えた。特に女性では、出産、子育てにおいてそうした事態がまま生じており、社会関係資本の多寡についてはサポートのニーズに対する供給の必要があることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会関係資本については既に多くの研究蓄積があるが、本研究は、社会関係資本の多寡を捉え、それによって生じる困難や支援可能性を可視化することを試みた。これを以前の質問紙調査の結果を踏まえて分析し、社会関係の有無や多寡がいかんにして、教育、就業、家庭生活等での有利不利や情緒的安定につながるのか、インタビュー調査を通じて具体的な文脈と結びつけた。

特にジェンダーとの関連で言えば、女性の社会関係が男性より多いことが指摘されるものの、出産、子育てによって社会関係が変わることを示し、社会関係資本を意義のある豊かなものという以上にサポートのニーズと、それに対する供給の面から捉える必要があることを示した。

研究成果の概要（英文）：This study conducted research interviews in Tokyo, Fukuoka, and Nagasaki, asking for details on family and social relationships, social activities, and needs for support on each life event and living situation, and examined them based on previous quantitative surveys. We confirmed socially disadvantaged groups are also disadvantaged in terms of access to social capital. However, interviewees often lose social capital or its effects that they had possessed, due to job changes, illness or disability in themselves or family members, and other factors. This is especially true for women in childbirth and child rearing. This indicates that the amount and various effect of social capital should be examined in term of supply and demand of social support on each living situation.

研究分野：社会学

キーワード：社会関係資本 社会的格差 ジェンダー 家族 教育

1. 研究開始当初の背景

社会関係資本が、現代社会の様々な課題との関連で注目を集め、多様な領域での研究はもちろん、従来からのネットワーク研究やソーシャル・サポート研究なども、社会関係資本の観点から改めてまとめられることも多くなってきた。社会関係にアクセスし、利益を引き出せる者とそうでない者の格差があるばかりでなく、社会関係が資本となるといふより排他性や抑圧性として機能する面も指摘され、それを過小評価しがちな研究への批判も出ている。社会的格差の拡大、女性の貧困、家族形成の困難などが指摘されるなか、社会関係資本がどのように、何に対して効果を有するかを、その獲得や恩恵の不平等に照準して検証することを考えた。

数量的研究の蓄積によって、どのような社会関係が、学力、学歴取得、就職や就業の継続、育児や介護に効果を有するか一定の知見はあり、この4名の研究者が以前行った研究においても、育児期の女性が有する社会関係資本の多寡が、その学歴や家庭の経済状況によって異なることを確認した。しかし、具体的にどのような生活状況のなかでその差が生じているのか、それが育児や女性の生活にどのような影響を与えるか十分把握できなかった。他方、以前施行したインタビュー調査では、子どもや配偶者が障害や病気を抱えている女性が、支援ネットワークによって大きく支えられている様子がわかり、ニーズを有する人々に社会関係資本がもたらす具体的な効果も一部明らかになった。本研究では、社会関係資本の多寡を捉える意義として、そこで生じる困難や支援可能性を可視化することであると想定した。

社会関係資本については、コールマン、ブルデュー、パットナムが言及されるべき嚆矢となるであろうが、社会統合に資するプラスの効果を指摘したパットナムは、2015年の著作において社会関係資本の社会的格差に照準し、社会関係資本の多寡が教育達成や就業にどのように影響するかについて、統計データとインタビューを関連づけた研究を行った(Putnam, R., 2015, *Our kids: the American Dream in crisis*, Simon and Schuster [= 柴内康文訳『われらの子ども 米国における機会格差の拡大』創元社, 2017.])。パットナムの主張自体が変わった訳ではなく現状を分析したものであるが、それは社会関係資本における力関係と格差を強調したブルデューの指摘に近づいたと考えられた。

また、O'Neill & Gidengil の編著は、ジェンダーの観点から、コールマンやパットナムの社会統合に対するプラスの効果を強調する社会関係資本研究を批判し、むしろ社会関係資本の権力性や格差に注目したブルデューやポルテスの研究を評価していた(O'Neill, B. and E. Gidengil, 2006, *Gender and social capital*, Routledge.)。同著作は、女性達が社会関係資本の蓄積と維持に特に貢献していたとされていたことに対して再考を促し、特定の人的つながりの両価性や文脈依存性、不平等な資源分配、人的つながりの維持のために投資する(ないしそのために労働する)者とそこから恩恵を受ける者の違いについても示唆を与えるものと考えられた。

こうした先行研究を踏まえつつ、子育て期の女性やその子どもの教育に焦点を当てながら、数量研究や先行調査、この4名の研究者が以前実施した質問紙調査の結果を、具体的な生活状況や社会構造との関連で生じるニーズと関連づけて捉えることを考えた。

2. 研究の目的

本研究では、特にジェンダーの視点を踏まえつつ、子育て期の親や子どもの教育について、社会関係資本の獲得、活用、効果などの具体的なあり方を、社会関係の有無や多寡がいかんにして、教育や就業における有利不利、あるいは生活上の情緒的安定につながるのか、具体的な文脈と結びつけた検討をすることを目的とした。

この4名の以前の共同研究において、子育て期の女性やその子どもの教育に焦点を当てた質問紙調査を特徴の異なる3地域で実施しており、社会関係資本の階層的な格差、ライフイベントを通じての社会関係の変化、女性自身の就業との関連、子どもの教育との関連等について、ある程度の傾向は把握していた。インタビュー調査を実施して、育児期の女性が有する社会関係資本の多寡や格差が具体的にどのような生活状況のなかで生じているのか、それを以前の質問紙調査の結果や利用可能なデータアーカイブの分析と合わせて検討することで、「社会的排除」も含む課題や支援可能性として捉えようとした。またライフイベントを通じた社会関係の変化についても、そのニーズ、サポートになった面、逆に当該社会関係がマイナスに機能した面から、育児や女性の生活に与えた影響を検討しようとした。

3. 研究の方法

東京、福岡、長崎の3地域において、行政の福祉窓口、子育て支援センター、女性センターで子育てをしている人を対象としてインタビューの協力者を募集し、調査を実施した。女性を中心としたが、対照群としての意見を聞ける可能性を考え男性からの応募も可能とした。その一部は、協力者から別の協力者に声がけしてもらってスノーボール・サンプリング式になった。東京11名、福岡12名、長崎13名、計36名からの協力を得た。

調査では、ライフイベントや生活状況と共に、家族・社会関係や社会活動状況やその変化、社会関係や子育てをめぐって感じた困難、サポートのニーズ等の詳細を尋ねた。

またインタビューで得られた回答について、過去に実施した計量調査結果等を踏まえて検討した。

4．研究成果

経済状況やひとり親世帯等による社会関係資本での不利はやはりある程度確認された。インタビューでの回答は、確かに個別性が高い面もあるが、社会関係の豊かさが、一方では世帯収入と、他方では就業形態と結びつく傾向があり、家庭単位として見れば高収入の性別分業家庭に有利に、女性個人の単位で見れば就業が社会関係資本を増す傾向があるという質問紙調査の結果と符合するものになった。また、子どもの母親同士の関係については、ひとり親と共に特にフルタイム就業の母親で不利な面が見られ、ひとり親世帯の人間関係の不利は、就業と世帯収入の両面が影響する可能性が示唆された。学校行事も含めて、家庭や子どもに専心して関わる母親を前提とするような社会関係や活動は、そうでない家庭に負担となり排他的に働く可能性がある。

質問紙調査の結果を見ると、確かにふたり親とひとり親では、ひとり親の社会関係や活動が少なくはなるが、子どものいない家庭と比べると社会関係や活動が多い。それはケアや養育のニーズと表裏一体のものとも言え、支援の希求と供給を、社会関係＝人脈の豊かさにそのまま置きかえてはならず、必要とされるニーズ、そのニーズが何のためのものか、その供給の多寡を踏まえて社会関係資本を評価する必要があることがわかった。

また、特にライフイベント上の新たな出来事が生じた際、それまで有していた社会関係を必ずしも当てにできない、あるいはそれが機能しない事態が生じることもインタビューのなかで確認された。それまで社会関係資本を多く有している人々、また収入等も高く特に困難を感じなかった人々でも、上述のひとり親になる（離婚等）こと、または子どもの障害への対応、家族や自分自身の病気等をきっかけに、それまでとは異なるサポート、情報、情緒的安定のための社会関係の模索がされることがしばしば見られた。それは、世帯収入や元々の社会関係資本においては相対的に恵まれた層でも同様であり、元々の社会関係ではなく、困難やニーズに応じた新たな社会関係の模索や、その時点まで顧みられなかった社会関係が賦活されることがある。特に同様の経験を持つ人々との関係や、専門家の情報やサポートが、情緒的な安定をもたらす事例が多く見られた。そして、結婚に伴う転職や移動、出産・子育て自体もまた、そのような面をもっていることが見えてきた。そうであるがゆえに、特に乳幼児を抱える母親達は、新たな社会関係を模索したり、実家等との関係を密にしたりしてもいる。当初は、ジェンダーに照準しながらも、社会関係資本についての女性間での格差や困難を具体的に検討することを想定し、それについても一定の知見を得られたと考えるが、同時に、新たな生活上の困難に応じて社会関係に脆弱性が生じたり、新たに模索される必要があること、女性にとっての出産や子育てがそうした面をもっていることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 石川由香里	4. 巻 64
2. 論文標題 幼児期におけるルール取得の2つの水準	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 活水論文集 健康生活学部編	6. 最初と最後の頁 142-155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Yuko Nakanish	4. 巻 28
2. 論文標題 Ethnic Social Capital Works as Substitute Family Networks Among Postwar Immigrant Japanese Women in the US.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 武蔵大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 35-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 杉原名穂子	4. 巻 6(3)
2. 論文標題 社会関係資本と家族要因の関連と効果 ジェンダー論の視点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会情報学	6. 最初と最後の頁 19-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14836/ssi.6.3_19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 石川由香里	4. 巻 779
2. 論文標題 子育てと母親のソーシャル・キャピタル	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊ウィラーン	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒木麻衣・高津麦・喜多加実代	4. 巻 173
2. 論文標題 性の多様性についての授業実践 自分の問題として捉え、アライとなる子どもを育てるために	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 リベラシオン	6. 最初と最後の頁 57-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 喜多 加実代	4. 巻 71
2. 論文標題 婚姻状態・子どもの有無別にみた社会関係資本のニーズと格差	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福岡教育大学紀要 (第二分冊) 社会科編	6. 最初と最後の頁 17 - 27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 喜多加実代
2. 発表標題 女性の就業課題に対する人間関係の影響
3. 学会等名 アジア女性交流・研究フォーラム (KFAW) KFAWアジア研究者ネットワーク
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 林雄亮・石川由香里・加藤秀一編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 250
3. 書名 若者の性の現在地: 青少年の性行動全国調査と複合的アプローチから考える	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石川 由香里 (Ishikawa Yukari) (80280270)	活水女子大学・健康生活学部・教授 (37405)	
研究分担者	杉原 名穂子 (Sugihara Nahoko) (00251687)	新潟大学・人文社会科学系・准教授 (13101)	
研究分担者	中西 祐子 (Nakanishi Yuko) (90282904)	武蔵大学・社会学部・教授 (32677)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関